

## 2026年7月26日 説教「主のみもとで憩う」

マタイの福音書 11 章 28～30 節

ルカの福音書の学びは 18 章が終わりましたこともあり、今朝はルカの学びはお休みにして、マタイの福音書 11 章から、教えられていきます。

### 1. 疲れ、重荷を負う人 (28 節)

#### ① 重荷を負う人 (28) 「すべて、疲れた人、重荷を負っている人は」

疲れには、労働による肉体的な疲れだけでなく、精神的な疲弊、弱りがあります。重荷とは何でしょうか。これは「できるなら免れたい重い負担」です。現実的な経済的負担、負債、家族などの背負っている課題。行末を見通すところに困難と不安。目の前の難解な仕事。一筋縄ではいかない人間関係。そして、悪霊のささやきによる重圧等、挙げればきりはないのですが、いずれも軽くはないのです。重いのです。それは心の内にのしかかり、肉体的な面にも及んできます。疲れた人の疲れ、重荷を負っている人の重荷は余人の知ることができないものです。それを抱えながら、その人は生きているのです。

#### ② 来なさい (28) 「わたしのところに来なさい。」

そんな人に、声がいただけるのです。「わたしのところに来なさい」と。「わたし」はイエス・キリストです。「わたしのところ」とはどこでしょうか。この記事にある時には、目の前におられました。しかし、現在の私たちはこの目、耳、手をもってイエスを見ることはできません。しかし、この方と出会うことはできます。この方の「ところ」に、今の時代でもたずねることができます。この方の御名によって祈る時に、私達はこの方とお会いすることができるのです。

#### ③ 休ませてくださる主 (28) 「わたしがあなたがたを休ませてあげます。」

キリストは「休ませてあげます」と言われます。イザヤ書 28 章 12 節に「ここにいこいがある。疲れた者をいこわせよ。ここに休みがある。」といういわば預言の言葉があります。それはイエス・キリストによって実現するのです。疲れた人には休みが必要です。それも本当の休みが必要です。それは、第一に物事の見方が変わるということです。この世の価値観に支配された者がキリストによって一新されるのです。また、私たちのところに主の御声が響き、静かなる心が与えられることです。さらには、そこに憩いが与えられることです。キリストは身体と魂の休息を与えてくださる方なのです。

### 2. キリストのくびき (29 節)

#### ① 心優しい方 (29) 「わたしは心優しくへりくだっているから」

イエス・キリストは私達をよく知り、迎えて下さる方です。キリストは「心優しい方」です。「心優しい」は 2017 年度版では「柔和な方」とあります。それは他者に対して怒りや傲慢な態度をとらないという意味です。旧約聖書ではモーセはそのような人であったとあります(民数記 12:3)。また、キリストは「へりくだったかた」とあります。「キリストは神の御姿である方なのに、神のありかたを捨てられないとは考えず、御自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じ姿になられました」(ピリピ 2:6-7)。彼は頭からつま先まで、謙遜な方なのです。つまり、まるで私達の仕え人のようにして私

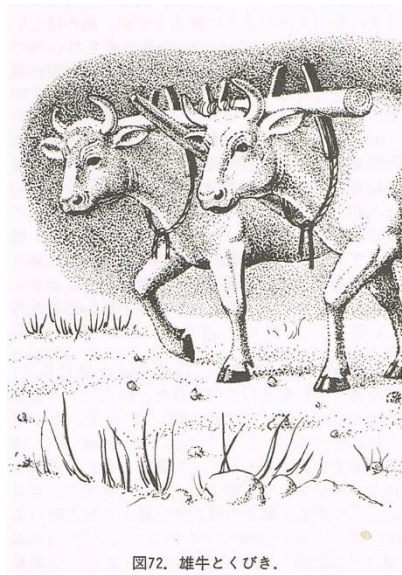


図72. 雄牛とくびき。

たちに対してくださる方なのです。

②くびきを負い (29)「あなたがたもわたしのくびきを負って」

キリストが謙遜の方だからこそ、私達はキリストのくびきを負えるのです。くびきとは何でしょう。後ろ頁の絵をご覧ください。二頭の牛が野良作業をする時に、足並みをそろえるために、頭上に木が渡されています。これがくびきです。くびきがないと、牛は勝手に動き出してしまいます。ここでのたとえはこうです。一頭は私達、もう一頭はイエス・キリストと考えてください。キリストは私たちとともにくびきを負ってくださるのです。重荷という荷物を引っ張るにしても、苦しみを共にし、なすべきこと共に負って下さるのです。王様はくびきを共にしてくれなくても、王の王なるイエス・キリストが「わたしのくびきを負いなさい」と言ってくださるのです。

③キリストから学ぶ (29)「わたしから学びなさい。」

一緒に歩んでいるなら、自然と相手から学ぶことになるでしょう。キリストから学ぶことは喜ばしいことです。キリストの謙遜や愛を体験的に学ぶことができるでしょう。そして、学ぶという言葉が真似ると 関連があるように私達はこの方の真似をしたいと願うようになるのです。「弟子」という言葉にも、学ぶ人という意味がありますが、この方からできるだけのことを学びたいものです。

3. 負いやすい (29b~30 節)

①安らぎ (29b)「そうすればたましいに安らぎが来ます。」

28 節では「休ませてくださる」とありましたが、ここでは「たましいに安らぎがくる」とあります。「たましい」というのは私たちの存在の中核にあります。そこに安らぎがもたらされることにより、その人に生きる力が与えられ、喜びや慰めが備えられて、進むことができるのです。安らぎは平安とも言い換えられますが、この平安が人との関係に平和をもたらすのです。

②負いやすいくびき (30)「わたしのくびきは負いやすく、」

4 頁の絵ではあまりよくわからないのですが、当時のユダヤの農耕において、牛にくびきを負わせるにあたって牛の体に当たる部分を、体のかたちに合わせて工作されていたので、牛は気持ちよくくびきを負えたようなので、イエス様がともにくびきを負ってくださるので、進む気もおきるし進む力も備えられるのです。

③軽い荷 (30)「わたしの荷は軽いからです。」

そして、その荷は客観的な意味で重い軽いではなく、主がともに歩んでくださるので、実際の重さよりも軽く感ぜられるのです。パウロは「私はどんな境遇にあっても満ち足りることを学びました。貧しさの中にいる道も知っています。飽くことにも飢えることにも、富むことにも、乏しいことにも、あらゆる境遇に対処する秘訣を心得ています。私は、私を強くしてくださる方によって、どんなこともできるのです。」(ピリピ人への手紙 4 章 11~13 節)と告白しています。パウロもイエス・キリストによって、力を得て宣教を続けていたのです。

《結論》こんな話があります。《ある少年が足の悪い小さい子どもを背負っていたのです。すると、近くにいた人が『君にはその子は重すぎるね』と言ったのです。すると、その少年が『重荷ではありませんよ。僕の弟ですから』と答えた》というのです。つまり、お兄ちゃんは弟のことをとても大切に思っていたので、重いなどと感じなかったのです。この兄の思いは弟に対する思いやり、あるいは愛と言い換えても良いでしょう。

この話から今朝のイエス・キリストのお言葉を考えてみましょう。第一に、イエス様は私達のことをとても愛して下さっている方ですから、私達が自分の重荷をあずけたとしても、重いとも思わずにそれを背負ってくださるのです。

私達の疲れや重荷については、章節の学びで既にみましたが、一つ例をみてみます。

創世記のヤコブの生涯を学んだことがありました。彼には 20 年間、絶えず忘れることができない、心の重荷がありました。彼は悩み、苦しみつづけました。かつてヤコブは兄エサウを欺いて長子の権利を奪い、父イサクから祝福をもぎ取ってしまったことがあります。その出来事は彼にとっては、後の彼には痛手となりました。その心の傷みは通奏低音のように、ヤコブの人生に響いていました。しかし、彼は北の地パダン・アラムにいる間に、神に取り扱われていました。だからこそ、安定を捨ててまで、与えられた使命を全うすることに身をささげることにしたのです。つまり、アブラハム、イサクから受け継いだ、約束の地における使命を全うすることにしたのです。信仰がなければできないことでした。しかし、それをするには人生の課題であるエサウとのことは、必ず生じてくることでした。彼はそれをも含めて信仰をもって、一族郎党を率いて出発したのです。結論を言えば、彼は心にのしかかっていたエサウとの和解も与えられました。そして、約束の地における一族の歩みは祝福されていたのです。

ヤコブの例にあるように、心の重荷というのは、すぐに解決がつくとは限りません。それと、そうした重荷は何らかの意味で、罪とからんでいることがあります。ヤコブは北の地における 20 年の歩みのなかで、繰り返し悔い改めをしてこしょう。それでは私たちはどうなのかということになります。イエス・キリストの愛をいただき、ともなるくびきを負っていただくために、私たちはどうしたら良いのでしょうか。

基本的にはイエス様の招きに応ずることです。「重荷負っている人は、わたしのもと来なさい」と言われているのですから、そのお招きを素直に受けいれていくことです。そうすれば休みが与えられます。それに、今朝の聖書箇所には、主と共なるくびきを負うことが教えられています。それでは、そのくびきを負うにはどうしたら良いでしょう。そのために大切なことは、十字架の主を仰ぐことです。自らの罪を認め、神の前にそれを告白し、この方が、その罪のために十字架で贖ってくださったことを信じることです。それが、神の愛を知る道です。この方が私たちの疲れや重荷を本当に知ってくださり、そこに関わってくださることを知ることになるのです。そうすれば安らぎが来るのです。

手術中、この御言葉を何回か覚えました。励ましと慰めをいただきました。十字架を負ってくださった主は、私たちの重荷を知ってくださるのです。

お兄さんに抱いてもらった弟の安心にまさる、平安と憩いを、主イエスは私たちにもたらしげくださるのです。